

**1 2. 高齢者・障害者支援分野における
国際標準化アクションプラン**

1. 分野の全体概要・最近の動向

高齢者・障害者支援分野は、高齢者・障害者への配慮に係る分野横断的な標準化、福祉機器・用具の標準化を行っている。

この分野に関しては、国連総会において平成18年12月、障害者の差別禁止を含む、自由権・社会権などの諸権利の確立を目的とする権利条約が全会一致で採択されるなど、国際的にも社会基盤の整備が求められている。

ISOにおいても、世界的な高齢化の進展、障害者への配慮の必要性を確認し、平成12年6月ISO/IEC政策宣言「標準化業務における高齢者・障害者のニーズの考慮」を発表している。宣言では、人間の能力又は限界の範囲をより広くカバーするアクセシブルデザインを標準に導入することを勧奨している。また、平成13年11月ISO/IECガイド71（規格作成における高齢者、障害者のニーズへの配慮ガイドライン）を発行し、高齢者・障害者配慮を盛り込んだ規格作りの推進を打ち出している。

また、ISO/COPOLCO（消費者政策委員会）は、現在もトッププライオリティの一つとして高齢者・障害者配慮を挙げている。

日本では、高齢者障害者基本計画（平成14年12月）の中で、ガイド71の重要性が取り上げられ、平成15年6月、JISZ8071（高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した規格作成配慮指針）が制定され、この配慮設計指針に沿った約30規格が現在作成されている。

このように、この分野の社会基盤の整備が国際的に求められている中で、高齢化の進展が顕著な我が国は、国際標準の場においてリーダーシップを発揮しやすい状況にある。

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略

高齢者・障害者支援分野の標準化は、「高齢者・障害者配慮設計指針（アクセシブルデザイン）」及び「福祉用具」を中心に開発が進められている。重点TCの選出においては、これらを勘案して選出する。

【高齢者・障害者配慮設計（アクセシブルデザイン）の推進】

ガイド71策定作業においてリーダーシップを発揮した我が国は、国際的にも高齢者・障害者に配慮した規格が整備され、製品の普及も進展している。このため、欧州をはじめ各国から、国際的な標準化推進の役割が期待されている。こうした世界的要請に応えることは、世界に先駆けて高齢化に直面する日本の果たすべき国際的な責務と考える。

よって、アクセシブルデザインとして現在国際提案を予定している以下の5つの規格の提案先、TC122（包装）及びTC159（人間工学）を重点TCとして選出する。

（国際提案予定規格）

- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の凸記号表示
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音－妨害音及び聴覚の加齢変化を考慮した音圧レベル
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－年代別相対輝度の求め方及び光の評価方法
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－包装・容器

重点TCにおける日本の標準化活動は、国際的な標準化推進の役割を果たすとともに、高齢者・障害者への配慮製品等は、新たな経済利益にもつながることもあることから、市場拡大の観点で、諸外国の高齢者・障害者のニーズ、規格整備状況等を確認しつつ戦略的に実施していくことが重要である。

このために、国際障害者関連団体、国内障害者団体等のアクセシブルデザインに関するニーズ、各国の現状規格の調査を行うとともに、アクセシブルデザイン規格の体系化の整備について検討する。また、規格開発に必要な加齢や障害特性に関する人間の科学的なデータ、人種文化等の相違の検討に必要な国際比較データの収集を行う。

日本がリーダーシップを発揮するためには、アジア諸国との連携が不可欠である。北東アジア協力セミナーから発足した「日中韓アクセシブルデザイン委員会」を足がかりにアジア諸国との連携体制を構築し、日本からの提案を確実に国際規格化するための枠組みづくりを推進することとする。

【福祉用具の標準化の推進】

高齢者・障害者の自立生活を支援する福祉用具は、身体への親和や生活環境への適合が強く求められる。しかし福祉用具の国際標準は、欧米人の体型及び生活様式を中心に検討されているため、欧米人とは体型及び生活様式の異なるアジア人には適合しにくいと思われる規定が散見される。これまでもアジア人にも使いやすいよう国際規格の改訂を粘り強く進めてきたが、今後は、国際規格作成初期から積極的に参画し日本の意見を反映するとともに、アジア人の体型及び生活様式を考慮した規格案等を体系的に検討し、国際的に提案していくことが必要である。そのため関係するTC173（福祉用具）を重点TCとして選出する。

（国際提案予定規格）

- ・ 歩行補助具の先ゴム－要求事項と試験方法－第1部：先ゴムの摩擦
- ・ 歩行補助製品の先ゴム－要求事項と試験方法－第2部：先ゴムの耐久性
- ・ 視覚障害者誘導用ブロック
- ・ 音響信号機
- ・ 視覚障害者誘導用ブロックの視認性を確保するための要件と試験方法
- ・ 車いすのリクライニング試験方法

国内では、介護保険法の導入に伴う福祉用具の利用機会の増加によって、JISマークに対し、福祉用具の貸与、購入の際の判断基準としての役割が期待されている。このため製品規格の体系的な整備に着手したところである。今後、数多くの福祉用具を対象とする規格が開発される見込みである。ここで開発された規格については、国際規格にないものは、国際貢献の観点から積極的に国際提案していくとともに、日本人特有の体型等に起因し国際規格との不整合が生じたものは、国際規格の改訂を積極的に提案していくこととする。

国際標準の場において日本のプレゼンスを高めるためには、体型、生活様式等が類似したアジア諸国との連携が不可欠である。北東アジア協力セミナーから発足した「日中韓福祉用具の標準化に係る意見交換の場」を足がかりに、日本からの提案を確実に国際規格化するための枠組みづくりを行うこととする。

3. 重点TCの活動状況

(1) 対象としているTC/SC/WG番号及び名称等

6. (1) に示す。

(2) 対象としているTC/SC/WGの最近の動向

【TC122 (包装)】

イランとのツイニング方式によって、日本が国際幹事国に就任するとともに、議長を務めることとなった。2年ぶりにTC総会がアトランタで開催された。新規事業項目として今後、アクセシブルデザイン・ユニバーサルデザインなどに取り組むものと思われる。

【TC159 (人間工学)】

OWG2 (人間工学/高齢者・障害者配慮)

日本が事務局及びコンビナーをつとめている。日本が提案した ISO/TR22411 (高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した製品やサービスに向けてガイド71を適用する際の人間工学的データ指針) についての討議が進んでいる。

OSC3 (人体計測と生体力学)

日本は、幹事国及び議長をつとめている。

OSC4 (人間とシステムのインタラクション)

日本はWG1の事務局及びコンビナー、WG6のプロジェクトリーダをつとめている。日本が提案した「高齢者・障害者配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第1部：共通指針」についての討議が進んでいる。

日本から提案予定の「高齢者・障害者配慮設計指針—消費生活製品の凸記号表示」の規格を審議することになるとと思われるWG10(新設)が設立され、日本が事務局及びコンビナーを引き受ける予定。

OSC5 (物理的環境の人間工学)

日本から提案予定の「高齢者・障害者配慮設計指針—消費生活製品の報知音」等、3件の規格を審議することになるWG5(特別な配慮を必要とする人々のための物理的環境)が設立され、日本が事務局及びコンビナーを引き受けた。

【TC173 (福祉用具)】

OWG1 (歩行補助具)

日本が、平成18年1月から事務局及びコンビナーをつとめている。日本が提案した「歩行補助具の先ゴム—要求事項と試験方法—第1部：先ゴムの摩擦」についての討議が進んでいる。

OWG7 (視覚障害者誘導のための設備)

日本が、事務局及びコンビナーをつとめている。日本が提案した「視覚障害者誘導ブロッック」、「音響信号機」についての討議が進んでいる。

OSC1 (車いす)

車いすの試験方法、座位保持、自動車への拘束について審議が活発に行われている。車いすを自動車に拘束する規格について、車いす側で規格作成が進められているが、自動車側の理解が得られていない。

OSC2（分類と用語）

ISO9999「国際福祉用具分類」第4版（第3回改訂版）の出版を予定している。この版は、WHOのICIDH（国際障害分類）が改訂されてICF（国際生活機能分類）となった（平成13年）ことに対応して基礎概念の見直しを行うとともに、ICT関連の最近の進歩を反映させるための大改訂を行うものである。

OSC3（ストーマ、おむつ、収尿器）

日本は、WG4（洗腸セット）及びWG5（皮膚保護剤）の事務局及びコンビナーをとめている。

OSC6（障害者リフト）

障害者リフトの規格は、CEN主導で審議されている。

OISO/173,IEC/SC62 ジョイント委員会

ジョイント委員会では、IECの「在宅で使用する医療介護用ベッド安全規格」の全面改訂作業を行っている。

4. 我が国の活動実績

【TC122（包装）】

（1）全体概要

日本は平成18年から、イランとのツイニング方式によって幹事国に就任するとともに、議長をつとめている。幹事国業務におけるイランとの役割分担は、日本がNWIPに関する件、イランが定期見直しに関する件を扱うこととした。

東北アジア標準化セミナーから発足した「日中韓アクセシブルデザイン委員会」において、アクセシブルデザインに関わる5つのJIS（うち一件は、包装・容器にかかわるもの）を紹介し、日中韓の共同で国際提案を行うことを確認した。また、中国、韓国以外のアジア各国に対し、アクセシブルデザインに関して広く情報発信を行い、提案予定の国際規格について協力を求めた。

（2）活動実績（物流技術分野に再掲）

①新規提案数：0件

②国際会議：

（参加実績）

－TC122/SC3/WG10 1名

－TC122/SC3/WG7 2名

③幹事国・議長・コンビナー等引受実績

－幹事国・議長：1（平成18年にイランとのツイニングによりTC122 幹事国・議長を引受）

【TC159（人間工学）】

（1）全体概要

OWG2（人間工学／高齢者・障害者配慮）

日本は、事務局及びコンビナーとして、日本が提案したISO/TR22411の制定作業を進めISO/DTRに進めた。ガイド71の運用を促進するために、背景情報となる人体特性に

関するデータを収集した。

OSC3（人体計測と生体力学）

日本は、幹事国及び議長をつとめている。日本人の人体計測データを提供し、欧州だけのデータによる規格化の方向に歯止めをかけるべき働きかけた。

OSC4（人間とシステムのインタラクション）、SC5（物理的環境の人間工学）

日本から提案予定の「高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音」等、3件の規格を審議することになると思われる SC5/WG5（特別な配慮を必要とする人々のための環境）が設立され、日本が事務局及びコンビナーを引き受けた。また、SC4/WG1 の事務局及びコンビナー、SC4/WG6 のプロジェクトリーダーをつとめている。

SC4 では、「高齢者・障害者配慮設計指針－情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス－第1部：共通指針」について、提案国として積極的に審議を進めた。

東北アジア標準化セミナーから発足した「日中韓アクセシブルデザイン委員会」において、アクセシブルデザインに関わる5つの JIS（うち一件は、包装・容器にかかわるもの）を紹介し、日中韓の共同で国際提案を行うことを確認した。また、中国、韓国以外のアジア各国に対し、アクセシブルデザインに関して広く情報発信を行い、提案予定の国際規格について協力を求めた。

（2）活動実績

①新規提案数 3 件（うち、平成18年の提案件数1件）

②国際会議

（参加実績）

－TC159 総会および SC1、SC3、SC4、SC5 の分科委員会、各 WG および TC159/WG2 会議が合計 33 回開催され、延べ 85 名が出席

－2006 年 4 月に米国デイトンで開催された TC159 総会には、5 名が出席

（日本での国際会議開催実績）

－10 月 11～14 日に SC1/WG1 および SC1/WG2 会議を東京で開催

－11 月 8 日に SC5/WG5 の設立第 1 回会議を福岡で開催

③幹事国・議長・コンビナー等引受実績

－幹事国・議長：1（TC159/SC3）

－コンビナー：3 名（うち、TC159/SC5/WG5 コンビナーを 18 年に引受）

－プロジェクトリーダー：1 名

【TC173（福祉用具）】

（1）全体概要

OWG1（歩行補助具）

日本は、事務局及びコンビナーに就任した。日本が提案した「歩行補助具の先ゴム－要求事項と試験方法－第1部：先ゴムの摩擦」を DIS 投票に進めた。また「歩行補助製品の先ゴム－要求事項と試験方法－第2部：先ゴムの耐久性」を日本から提出することを確認した。

OWG7（視覚障害者誘導のための設備）

日本は、事務局及びコンビナーをつとめている。日本から提案の「視覚障害者誘導プロ

ック」はCDとして、「音響信号機」はDISとして登録した。

OSC1（車いす）

車いすの試験方法、座位保持、自動車への拘束について審議が活発に行われている。利用者の体格など身体的特徴により必要となる強度などが異なってくるものや、生活習慣と関わりの深い規定は、日本の事情を繰り返し説明した。

OSC2（分類と用語）

ISO9999「国際福祉用具分類」改訂作業において、ICT関連の改訂作業に積極的に参加するとともに、車いすの分類においても我が国の考え方が入るように提案、改正を行った。また、共用品とユニバーサルデザインを分類にどう取り入れるかについて積極的な議論を展開してきている。これらは次回改訂作業（第5版）の準備として行ってきており、これから反映されるものである。

OSC3（ストーマ、おむつ、収尿器）

日本は、WG4（洗腸セット）及びWG5（皮膚保護剤）の事務局及びコンビナーをつとめている。日本が提案した「皮膚保護剤の用語」を国際規格にした。

OSC6（障害者リフト）

日本は、CEN主導で審議されているCEN会議のISO代表として参加している。

OISO/173,IEC/SC62 ジョイント委員会

IEC規格の「在宅で使用する医療介護用ベッド安全規格」の全面改訂作業において、日本における利用者の身体的特徴により必要となる強度が異なるものや、生活習慣と関わりの深い規定は、日本の事情を繰り返し説明した。

（2）活動実績

①新規提案数：0件

②国際会議

（参加実績）

－ISO/TC173（IEC/SC62D/WG10s ジョイント） 1名

－ISO/TC173/WG1 6/8,9 スウェーデン 5名、12/4,5 ドイツ 4名

－ISO/TC173/WG7 10/23-27 フランス 8名

－ISO/TC173/SC1 4名

－ISO/TC173/SC2 4/27,28 ドイツ 3名、10/16,17 ドイツ 3名

③幹事国・議長等引受実績

－コンビナー4名（うち、TC173/WG1のコンビナーを平成18年度に引受）

5. 平成19年度活動計画

【TC122（包装）】

（1）全体概要

日中韓の共同で国際提案を行うことを確認した「高齢者・障害者配慮設計指針－包装・容器」について、NWIPとして提案し、幹事国及び議長として積極的に討議を進める。そのために、当該提案に係わるWGを新設する。

また、引き続き、日中韓の枠組みによる国際標準化を推進するとともに、中国、韓国以外のアジア各国に対し、アクセシブルデザインに関して広く情報発信を行い、各国の協力

を求める。

(2) 新提案予定件数：1件

(3) 幹事国引受予定件数：1件

「高齢者・障害者配慮設計指針－包装・容器」を担当する WG の事務局及びコンビナーを引き受ける予定。

【TC159 (人間工学)】

(1) 全体概要

日中韓の枠組みによる国際標準化を引き続き推進するとともに、中国、韓国以外のアジア各国に対し、アクセシブルデザインに関して広く情報発信を行い、協力を求める。

○アドバイザーグループ

日本からの働きかけによって、TC 内に設置される見込みのアクセシブルデザインに関する諮問機能を持つアドバイザーグループにおいて、事務局及び議長を日本が担当し、アクセシブルデザイン規格の推進のための体制構築及び戦略を検討する。

OWG2 (人間工学／高齢者・障害者配慮)

高齢者・障害者配慮規格開発に必要な、加齢や障害特性に関する人間の科学的データを感覚、身体、認知機能に関して収集する。また、国際比較として、音声認識の基本特性や段差昇降に関するデータを欧州、米国、韓国、日本において収集し、人種文化によるデータの差を検討する。さらに、これらのデータをもとに新規課題として、適切な文字サイズを設計する手法や適正な音声の音圧に関する規格原案を作成し、国際提案するとともに、これら規格の基となる TR22411 の第2版に向けたデータ提案を行う。

OSC3 (人体計測と生体力学)

幹事国及び議長をつとめる。日本人の人体計測データを提供し、欧州だけのデータによる規格化の方向に歯止めをかけるべき働きかける。

OSC4 (人間とシステムのインタラクション)、SC5 (物理的環境の人間工学)

日本は、SC4/WG1 の事務局及びコンビナー、SC4/WG6 のプロジェクトエディタをつとめている。「高齢者・障害者配慮設計指針－情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス－第1部：共通指針」について、提案国として積極的に審議を進める。

日中韓の共同で国際提案を行うことを確認したアクセシブルデザインに係わる4件のテーマについて、NWIP として提案し WD 作成作業を進めるとともに、事務局及びコンビナーとして積極的に討議を推進する。

(NWIP テーマ4件)

- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音－妨害音及び聴覚の加齢変化を考慮した音圧レベル
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－年代別相対輝度の求め方及び光の評価方法
- ・ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の凸記号表示

(2) 新提案予定件数：4件

(3) 幹事国引受予定件数：0件

【TC173（福祉用具）】

(1) 全体概要

OWG1（歩行補助具）

事務局及びコンビナーとして、日本から提案の「歩行補助具の先ゴム－要求事項と試験方法－第1部：先ゴムの摩擦」の審議を推進する。「歩行補助製品の先ゴム－要求事項と試験方法－第2部：先ゴムの耐久性」をNWIPとして提案する。

また、国際会議を日本で5月に開催する。

OWG7（視覚障害者誘導のための設備）

事務局及びコンビナーとして、日本から提案の「視覚障害者誘導ブロック」及び「音響信号機」の審議を推進する。また、コントラストについて国際提案のための準備を行う。

OSC1（車いす）

JISで規定されている車いすの試験方法のうち、国際規格にないリクライニング時における安定性等について、国際規格の改正案提出のための検討を行う。

OSC2（分類と用語）

平成20年から始まるISO9999「国際福祉用具分類」次回改訂作業の準備を積極的に行う。

OSC3（ストーマ、おむつ、収尿器）

「皮膚保護剤の試験方法」を新規提案する。

OSC6（障害者リフト）

障害者リフトの規格は、CEN主導で審議されている。日本は、ISO代表としてCEN会議に参加する。

OISO/173,IEC/SC62 ジョイント委員会

「在宅で使用する医療介護用ベッド安全規格」の全面改訂作業に対し、引き続き日本からの提案活動を行う。

(2) 新提案予定件数：1件

(3) 幹事国引受予定件数：0件

6. 参考資料集

(1) 高齢者・障害者支援分野のISO/TC/SC及びWGの活動状況及び重点分野

注1) ◎印がついているのが重点分野

注2) 日本議長、主査には○印

TC 番号	SC 番号	WG 番号	名称	参加 地位	国内審 議団体	幹事国	日本 議長	日本 主査	重点 分野	
ISO/122			包装	S/P	(社)日装協 本包術 本技会	日本、 イラン	○		◎	
			4 バーコード			米				
			5 用語			米				
			6 金属ドラム			オランダ				
			7 包装表示－1次元及び2次元シンボル			米				
			8 プラスチックドラム			独				
			3			包装の品質要件及び試験	P	英		
ISO/159			人間工学	P	日 本 人 学 工 本 学 間 会	独			◎	
			2 特別な配慮を必要とする人々のための人間工学	P		日本		○		
			1	人間工学の指導原理		P	独			
				1 作業システムの設計原則			独			
				2 精神作業に関する人間工学的指導原理			独			
				3 用語			独			
			3	ユーザビリティとその評価		S/P	独			
				1 人体計測と生体力学			日本	○		
				4 基本人体測定項目			米			
				筋力：手作業と許容限度			オランダ			
			4	人間とシステムのインタラクション		P	英			
				1 制御器と信号表示方法の基礎			日本			○
				2 視覚表示の条件			オランダ			
				3 制御装置、作業上及び環境の条件			独			
				5 人間－機械の対話			英			
				6 インタラクティブシステムの人間中心設計過程			英			
				8 制御室の人間工学的設計			英			
				9 触知および触覚のインタラクション			カナダ			
				5			物理的環境の人間工学	P		英
			1 温熱環境			デンマーク				
4 環境との調和	英									
ISO/168			義肢及び装具	P	日 本 義 肢 装 具 学 会	独				
			1 用語と分類			英				
			2 医学的見地			英				
			3 試験方法			独				
ISO/173			福祉用具	P	JASPA	スウェーデン			◎	
			1 歩行補助具		NITE	日本		○		
			7 視覚障害者誘導のための設備		リハビリテーション工学会	日本		○		
			1	車いす	P	JASPA	南アフリカ			
				1 試験方法			米			
				6 拘束システム			オランダ			
				8 階段昇降機			オーストリア			
				10 電気関係の試験法			スウェーデン			
			2	シーティング	P	(財)テ クノ イド 協 会	英			
				用語と分類			オランダ			
			3	ストーマ・おむつ・収尿器	P	排 泄 関 連 機 器 標 準 化 協 議 会	スウェーデン			
				2 おむつ			米			
				3 ストーマ			スウェーデン			
				4 洗腸具			日本		○	
				5 皮膚保護剤			日本		○	
6	障害者リフト	P	JASPA	スウェーデン						

TC数	SC数	WG数		幹事	議長	主査
4	9	36	日本引き受け数	2	2	7

(2) 2006年活動実績データ

①提案規格数1 新規1

TC	SC	WG	規格名称	新規・改正の別
159	4	2	ISO/PRF TR 9241-308: Ergonomics on human-system interaction — Part 308: Surface-Conduction Electron-Emitter Displays (SED)	

注) 改正は△印

②国際会議実績

a) 参加実績

37回延べ116名

b) 日本での開催実績

TC	SC	WG	開催地	開催期間
159	1	1,2	東京	2006. 10/11～10/14
159	5	5	福岡	2006 11/8

③幹事国・議長等引受実績

TC	SC	WG	幹事・議長・主査の別
122			幹事
122			議長
159	5	5	主査
173		1	主査